

ラグビーワールドカップ2019
東京2020オリンピック・パラリンピック
に向けた
横浜ビジョン

～横浜のさらなる飛躍とレガシーの創造～

【横浜市案】

平成28年4月



OPEN
YOKOHAMA

横浜市

目次

1 基本姿勢

2 取組の4つの柱

3 4つの柱別の主な取組とレガシー※

4 主なスケジュール

参考1 ラグビーワールドカップ2019について

参考2 東京2020オリンピック・パラリンピックについて

参考3 オリンピックにおける「文化プログラム」について

※レガシー

オリンピックにおいては、オリンピック憲章(「IOCの使命と役割」)で、「オリンピック競技大会の有益な遺産(レガシー)を、開催国と開催都市に残すことを推進すること」とされており、ラグビーワールドカップにおいても同様に、開催自治体に対して「レガシープログラム(大会の開催を通じて創り上げる資産を将来に生かすための活動)」に協力することが求められています。

1 基本姿勢

- オール横浜でラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピックの成功に最大限貢献します。
- スポーツと文化芸術を両輪とした取組により、賑わいと活力を創出します。
- 世界中から様々な人々が訪れる両大会、とりわけパラリンピックを契機に誰もが互いに尊重し、支え合う共生社会の実現を目指します。
- 両大会に向けた取組の成果を「次の世代への贈り物(レガシー)」として遺し、横浜のさらなる飛躍につなげます。

2 取組の4つの柱

(1) 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

ラグビーワールドカップ2019は決勝戦開催都市として、東京2020オリンピック・パラリンピックは競技開催都市として、関係機関と連携して円滑な大会運営に取り組むとともに、国内外から訪れる皆様を全力でおもてなしします。

ソフト・ハード両面でのバリアフリーを推進するとともに、開催都市プロモーション・広報やイベントなどによる機運の醸成や、トレーニングキャンプの受入れ等を通じた国際交流などで両大会を大いに盛り上げ、ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピックに対して最大限の貢献をしていきます。

(2) スポーツを通じて横浜を元気に

ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピックを契機に、地域スポーツや障害者スポーツをはじめ、さらなるスポーツ振興に取り組み、障害の有無や世代に関わらず子どもから高齢者まで全ての市民がスポーツや運動に親しみ、健康で心豊かに生き生きと暮らすことができる、元気な横浜の実現を目指します。

(3) 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

人々の活力や市民生活の向上につながる文化芸術の振興を図ります。文化芸術の持つ創造性を様々な施策に生かし、コミュニティの活性化を図るなど創造的なまちづくりを進めます。

横浜ならではの文化プログラムを実施し国内外に発信するとともに、賑わいづくりと経済の活性化につなげます。

(4) 横浜を世界に魅せる

横浜のプレゼンスやブランド力を高めるためのシティプロモーションを展開し、文化芸術創造都市、環境未来都市、世界に開かれた国際都市、ビジネスチャンスあふれる都市など、横浜が持つ様々な姿を世界に魅せていきます。

また、国内外からの誘客を強化し、観光客など来訪者の滞在環境や回遊性を一層充実させるほか、MICE機能の強化やビジネス環境の向上を進め、さらなる賑わいと活力を創出します。

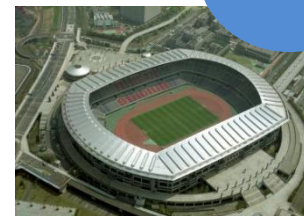
(1) 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

* 本市で開催される競技について、関係機関と連携・協力し、円滑に実施します

円滑な
大会運営

主な取組

- ①競技会場における各種計画(警備、安全確保、救急医療体制など)の策定・実施
- ②競技会場やアクセスルートなどのバリアフリーや屋外広告物への対応
- ③組織委員会と連携した大会運営ボランティアの育成・活用



* 両大会に向けて機運を醸成し、大会を盛り上げます

主な取組

- ①機運の醸成と両大会を盛り上げるための広報・イベントの実施
- ②来訪者をおもてなしするボランティアの育成・活用に向けた取組
- ③ラグビーワールドカップ2019ファンゾーンの設置による来訪者へのおもてなし

ファンゾーンの
設置



* トレーニングキャンプの受入やホストタウンの取組等を通じた国際交流を進め、様々な国の人々と理解し合い協働できる人材の育成などに取り組みます

主な取組

- ①トレーニングキャンプの受入れに向けた調整
- ②ホストタウン構想の実施などによる国際交流の推進
- ③文化の異なる人々と協働する姿勢を身につけた人材の育成

英国オリンピック
代表チームの事前
キャンプ地に決定



英国オリンピック委員会、JOC、横浜市、川崎市及び慶應義塾大学の5者による覚書締結。

取組から
生まれるレガシー

- 高い大会運営能力と世界に誇るホスピタリティを持つまちの実現
- ソフト・ハード両面でのバリアフリーの推進
- 医療関係機関の国際化推進
- ボランティア文化の醸成・定着
- トレーニングキャンプ実施国・チームと地域とのつながり
- 多文化共生を尊重する意識や国際感覚の醸成

(2) スポーツを通じて横浜を元気に

- * ラグビー競技の普及を図りながら、スポーツへの意欲向上と地域スポーツの振興に取り組みます

主な取組

- ①オリンピック・パラリンピアン、ラグビー日本代表等トップアスリートと小・中学生等との交流を通じた運動意欲の向上
- ②市民参加型スポーツイベントの充実や横浜文化体育館再整備等による場の拡充など、地域スポーツの振興
- ③ラグビーワールドカップ2019開催を契機としたラグビーの普及・啓発

運動意欲
の向上



- * 障害のある人もない人も同じようにスポーツ活動を楽しむことができるよう、広く社会全体に向けて、障害者スポーツの推進に取り組みます

主な取組

- ①学校や地域のスポーツイベント等での障害者スポーツの実施、体験を通じた障害者スポーツの普及・啓発（パラリンピック競技体験等）
- ②横浜ラポールと連携した取組、身近で活動できる場の確保、特別支援学校等におけるスポーツ活動の活性化など、スポーツ関係団体や障害者団体とも連携した障害者スポーツの推進

- * 子どもたちの体力向上とスポーツに関わる人材の育成に取り組みます

主な取組

- ①市内小・中・高等学校・特別支援学校と連携した取組
- ②横浜商業高等学校におけるスポーツマネジメント人材の育成

健康づくりの
ムーブメント



- * 本格的な高齢社会の到来に伴い、生活習慣の改善や介護予防を進めるため、運動などを通じた健康づくりに取り組みます

主な取組

- ①ウォーキングなどの運動による生活習慣の改善や、日常生活の中で取り組める仕組みなどによる健康づくりの推進
- ②高齢者も楽しむことができるスポーツの推進ほか生涯スポーツの推進

取組から
生まれるレガシー

- スポーツ実施状況の向上
- パラリンピック競技や障害者スポーツの普及・促進
- 子どもたちの体力向上
- 市民の健康増進

(3) 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

横浜らしい特色ある芸術フェスティバルをはじめとした文化プログラムの実施により、まちに賑わいを創出するとともに、横浜の魅力を世界に発信します

主な取組

- ①横浜トリエンナーレ、横浜芸術アクション事業など横浜ならではの質の高い文化プログラムの実施
- ②環境技術を活用したアートイベント(スマートイルミネーション)やユニバーサルな文化事業(パタトリエンナーレなど)の実施

* 子どもたちの豊かな感性や創造性を育む文化芸術体験の充実や新進アーティストの支援といった次世代育成に取り組めます

主な取組

- ①子どもたちの文化芸術体験の取組の充実
- ②新進アーティストの発掘・育成・支援

* 一人ひとりの市民が、地域におけるさまざまな文化芸術活動に参加し、いきいきと活動できる環境の整備や文化芸術活動への支援を行います

主な取組

- ①地域における文化芸術活動の拠点機能の充実
- ②地域課題の解決につながる文化芸術活動の支援

* アーティスト・クリエイターなど創造的な人材と企業や地域との協働を推進し、創造的産業の集積・振興につなげ、創造性を生かしたまちづくりを進めます

主な取組

- ①企業やNPO、大学等と連携したアーティスト・クリエイターの集積とビジネス機会の創出
- ②アーティスト・クリエイター同士のネットワークづくり

横浜らしい
文化プログラム



ヨコハマトリエンナーレ2014
マイケル・ランディ
《アート・ピン》2010/2014
撮影:加藤健

創造性を生かした
まちづくり



取組から
生まれるレガシー

- 「文化芸術創造都市 横浜」のプレゼンス向上
- 子どもたちや新進アーティストが横浜をはじめ世界で活躍するチャンスあふれるまちの実現
- 文化芸術活動の拠点機能の充実や地域課題の解決につながる文化芸術活動の支援などによる心豊かな市民生活の実現
- アーティスト、クリエイター、企業、地域の協働体制の確立による創造的活動の展開

(4) 横浜を世界に魅せる

- * 「横浜ならではの」の魅力・コンテンツの発信により、国内外から人が訪れ、賑わう「千客万来のまちづくり」を進めます

主な取組

- ①横浜ならではの魅力創出とシティプロモーションの展開
- ②インバウンド対応強化など千客万来のまちづくり

- * 来訪者の滞在環境の向上や都心部での緑化(花)等により、来訪者や市民が「居心地がいい」と感じるようなまちづくりを進めます

主な取組

- ①バリアフリーの取組や案内サインの多言語化、通信環境の向上などによる快適な滞在環境の提供
- ②花や緑による賑わいの創出
- ③都心臨海部における新たな交通による回遊性の向上

- * 再生可能エネルギー等の活用や環境に配慮したライフスタイルの推進など、世界のモデルとなるスマートシティの実現を目指します

主な取組

- ①エネルギーマネジメントの推進・再生可能エネルギー・水素等の活用
- ②環境に配慮したライフスタイルの推進
- ③みなとみらい21地区を中心に、スマートなまちづくりに向けた環境ショーケースとしての取組を推進

- * 世界に開かれた国際都市・ビジネスチャンスあふれる都市 横浜を発信します

主な取組

- ①MICE機能や客船の受入機能の強化
- ②ビジネス環境の向上とプロモーションの充実によるビジネス機会の拡大

花と緑による賑わいの創出



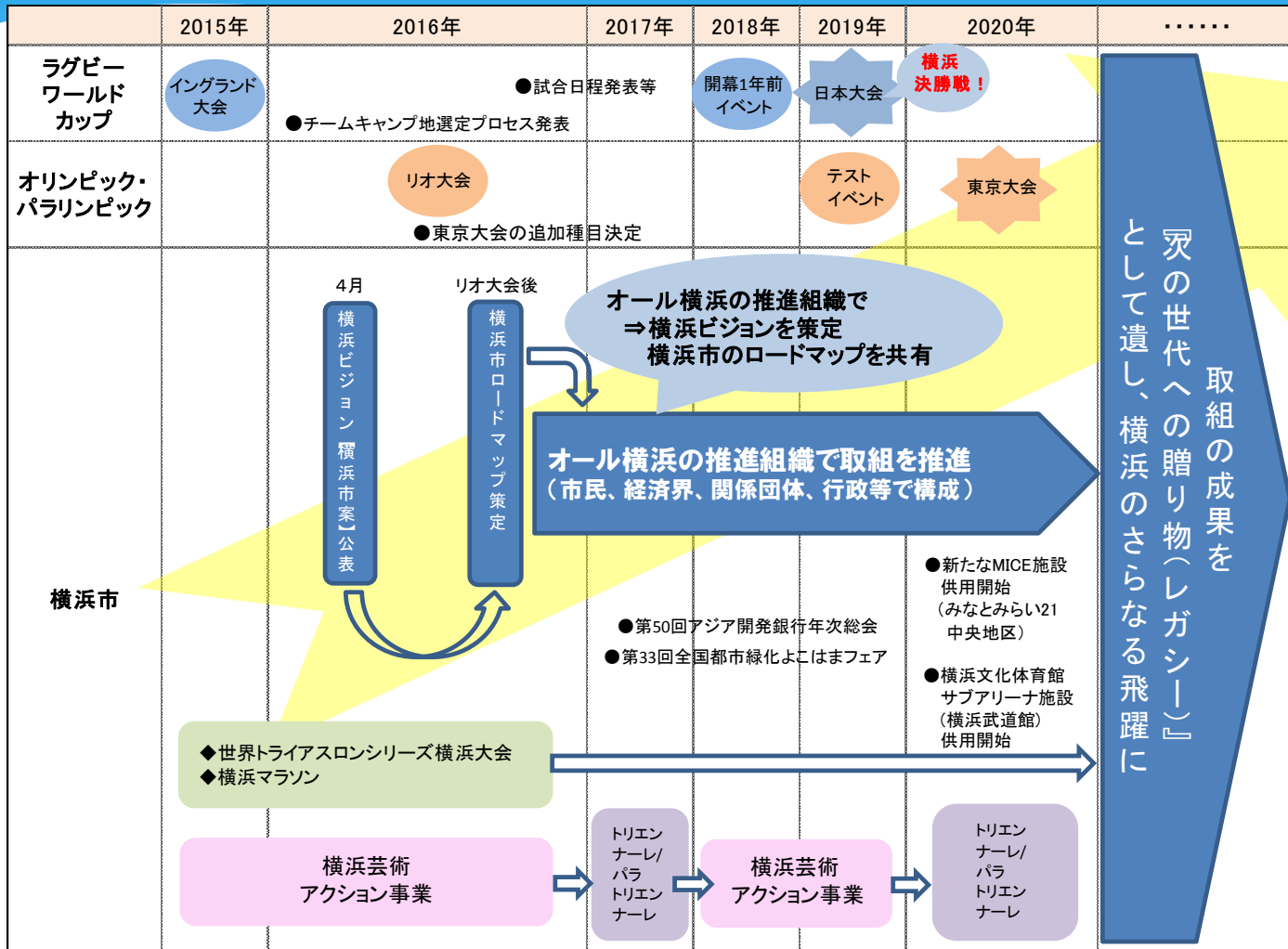
客船の受入機能強化



取組から生まれるレガシー

- 「選ばれる都市 横浜」の実現
- 世界のモデルとなるスマートシティ横浜の実現
- 快適な滞在環境の整備(案内サインの多言語化、通信環境の向上、駅周辺のバリアフリー、花や緑があふれるまち)
- 「国際的なMICE拠点都市」の実現

4 主なスケジュール



- * リオデジャネイロ2016大会後に、市民、経済界、関係団体等の皆様と行政によるオール横浜の推進組織を立ち上げ、横浜ビジョンを策定し、オール横浜でラグビーワールドカップ2019・東京2020大会に向けた取組を推進していきます。あわせて、横浜市の取組をとりまとめたロードマップについてもオール横浜の推進組織で共有します。
- * 2019年・2020年までの間には、第33回全国都市緑化よこはまフェアや第50回アジア開発銀行年次総会等が行われます。こうした様々な機会を生かしながら、2019年・2020年に向けて横浜のさらなる飛躍に取り組みます。

参考1 ラグビーワールドカップ2019について

4年に一度開催され、代表20チームが世界一を競い合う世界最大のラグビーの国際大会です。オリンピック、FIFAワールドカップと共に世界三大スポーツイベントのひとつとされています。

1987年の第1回大会からラグビーの伝統国を開催国として8回にわたって開催されてきました。第9回の2019年は、アジアで初めてとなる大会が日本で、そして横浜で開催されます。

横浜国際総合競技場では決勝戦の開催が予定されており、2002FIFAワールドカップに続き、決勝戦の会場となります。

また、大会開催期間中は市内にファンゾーンが設置され、競技会場だけではなく、市内で広く盛り上がり、横浜が大いに賑わうことが期待されます。

* ラグビーワールドカップ2019大会の概要

- 1 開催期間 2019年9月20日(金)～11月2日(土)(約6週間)
- 2 参加チーム 20チーム(予定)
- 3 試合数 48試合(予選40試合、決勝トーナメント8試合)
- 4 試合会場 全国12会場で開催
決勝戦 11月2日(土)横浜国際総合競技場
- 5 海外からの渡航客 40万人(想定)※1
- 6 経済波及効果 約4,200億円(想定)※1

※1 会計事務所アーンスト・アンド・ヤング試算

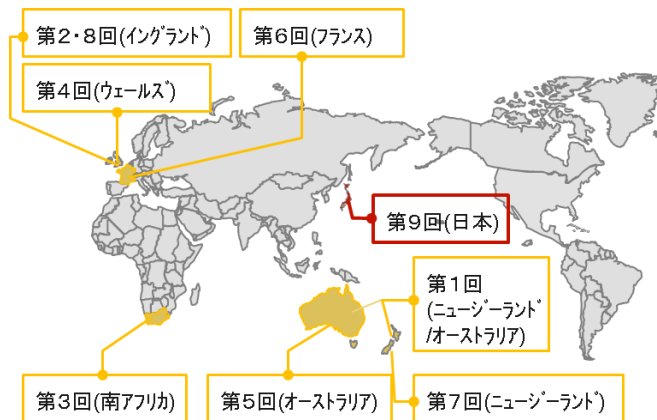
ラグビーワールドカップ2015(※2)

- 1 チケット販売枚数 247万枚
- 2 ファンゾーン来場者 100万人
- 3 決勝戦観戦者 1億2000万人
(テレビ視聴者含む)
- 4 参加ボランティア 6,000人

※2 「イングランドラグビー2015プレスオフィス」より



トゥイッケナム・スタジアム
(イングランド)



* ファンゾーンとは

公共のエリアでパブリックビューイングなどラグビーファン向けにラグビーワールドカップに関する体験を提供するスペース。



リッチモンド/オールドパーク
ファンゾーン (イングランド)

参考2 東京2020オリンピック・パラリンピックについて

オリンピックは四年に一度開催される世界的なスポーツの祭典で、スポーツを通じた人間育成と世界平和を究極の目的とし、夏季大会と冬季大会を行っています。パラリンピックは障害者を対象とした、もうひとつのオリンピックです。4年に一度、オリンピック競技大会の終了直後に同じ場所で開催されています。

今回の東京2020オリンピック・パラリンピックでも、サッカー競技が横浜国際総合競技場で開催される予定となっており、前回の東京大会に引き続き、オリンピックの競技開催都市となります。

* 東京2020オリンピック・パラリンピックの概要

1 第32回オリンピック競技大会(2020/東京)

- (1) 開催期間 2020年7月24日(金)～8月9日(日)(17日間)
- (2) 競技数 28競技 ※1

2 東京2020パラリンピック競技大会

- (1) 開催期間 2020年8月25日(火)～9月6日(日)(13日間)
- (2) 競技数 22競技

※1 追加提案中の競技については、28年8月に開催されるIOC総会で決定する見込み。

《追加提案中の競技》

「野球・ソフトボール」、「空手」、「スケートボード」、「スポーツクライミング」、「サーフィン」(計5競技18種目)

《参考》 1964年東京大会と横浜

前回の東京大会では、三ツ沢公園球場でサッカー競技が、横浜文化体育館ではバレーボール競技が開催されるとともに、大会開催に合わせて「オリンピック理解運動」や「国際理解運動」など、様々な市民活動も行われました。



国旗などがはためく1964年大会時の横浜文化体育館

* ホストタウンの取組について

政府において、東京2020オリンピック・パラリンピック開催に向け、全国の自治体と大会参加国・地域との人的、経済的、文化的な相互交流を図るとともに、スポーツ立国、共生社会の実現、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から「ホストタウン構想」を推進しています。

ホストタウン構想では、東京2020オリンピック・パラリンピック参加国と自治体との間で、交流計画を作成し、大会の前後を通じて交流の取組を行います。

* トレーニングキャンプについて

ラグビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピックとも、大会に参加するアスリートのコンディション調整やパフォーマンスの維持・向上を図るため、開催地の周辺都市等で各国・地域の代表チームのトレーニングキャンプが実施されます。

トレーニングキャンプが市内で実施されることにより、ホストタウン構想と同様、市民と大会参加国・チームとの交流の機会が生まれます。

参考3 オリンピックにおける「文化プログラム」について

オリンピックはスポーツの祭典であると同時に、文化の祭典でもあります。オリンピック憲章では、オリンピズムの根本原則として「スポーツと文化と教育の融合」を謳っており、オリンピック開催国の大会組織委員会は複数の文化イベントからなる「文化プログラム」を計画しなければならないと規定されています。


特に、2012年のロンドン大会においては、大会開催4年前の2008年から「カルチュアール・オリンピアド」と題した大規模な文化プログラムが、ロンドンのみならず英国全土で開催されました。合計18万件にも及ぶ様々な文化イベントに、延べ4,300万人が参加し、近代オリンピック史上、最大の規模と内容で展開されました。このロンドン大会を期に、オリンピックにおける文化プログラムの位置づけや役割が大きく変化し、大会成功のための重要な要素となっています。

また、国においても、東京2020オリンピック・パラリンピックを契機とした「文化芸術立国」の実現のために、東京2020オリンピック・パラリンピック及びラグビーワールドカップ2019の機会を生かし、2016年秋から全国津々浦々で文化プログラムを推進し、ロンドン大会を超える20万件の文化イベントの実施・5,000万人の参加を目指しています。

横浜市は、上記大会組織委員会や国の文化プログラムと連携し、横浜ならではの文化プログラムの展開等により賑わいや活力の創出を図ります。

	2012ロンドン大会(実績)	2020東京大会(目標*)
開催時期	2008年9月～2012年9月	2016年9月～2020年9月
開催場所	英国全土で1,000か所以上	全国で1,700か所以上
イベント総数	177,717件	200,000件
参加アーティスト数	40,464人	50,000人
関係機関間の連携(文化芸術団体、教育機関、企業等)	10,940件	15,000件
総参加者数	4,340万人	5,000万人

※平成27年4月10日
「オリンピック・パラリンピックレガシー創出に向けた文部科学省の考えと取組」より



横浜市市民局スポーツ振興部スポーツ振興課

平成28年4月作成

横浜市中区港町1-1

Eメール sh-sports@city.yokohama.jp

電話番号 045-671-3690

ファクス番号 045-664-0669

ウェブサイト <http://www.city.yokohama.lg.jp/shimin/sports/>